

21世紀における部落問題 表象、現実、機会を再考する
Buraku Issues in the 21st Century:
Reconsidering Representations, Realities and Opportunities
2015年10月31日
国際基督教大学
東ヶ崎潔記念ダイアログハウス 国際会議室

徳川時代におけるアウトカースト集団の困難に満ちた歴史から、明治初期の解放を経て20世紀に至るまで、部落問題は、長きにわたって、研究者や活動家の関心を集める主題であった。現代の部落民の状況は明らかに改善されてきたが、多くの部落民が直面する構造的および個人的な問題を浮き彫りにするギャップは依然として残っている。

本シンポジウムでは、「表象」、「現実」、「機会」という3つの幅広いアプローチを通じて、部落民が直面する状況を検討する。1つのディシプリンまたはテーマから部落問題にアプローチするよりはむしろ、部落問題をより総体的に考察し、これらの相互作用を浮かび上がらせるような、重なり合うアプローチを基礎としている。

スケジュール

13:00 – 13:15 開会の辞：クリストファー・ボンディー（国際基督教大学）

13:15 – 13:45 **基調講演**：「21世紀における部落問題」
イアン・ニアリー（オックスフォード大学）

13:50 – 14:50 **歴史的考察**

「近代部落の歴史における『タブー・サイクル』」
ティモシー・エイモス（シンガポール国立大学）

「近代社会における部落問題—歴史をたどりながら」
黒川みどり（静岡大学）

14:50 – 15:10 休憩

15:10 – 16:30 **現代社会**

「修辞的行動主義の言語生活と部落運動」
アン・マクナイト（白百合女子大学）

「部落の青年にとっての部落解放運動—運動への参加・継続要因」
内田龍史（尚絅学院大学）

「学校における学習とその結果—沈黙を拒否しつつ、沈黙を繰り返す」
クリストファー・ボンディー（国際基督教大学）

16:40 – 17:10 **基調講演**：「部落問題のパラダイム転換とネオリベラリズム批判」
野口道彦（大阪市立大学）

17:15 – 17:30 閉会の辞：クリストファー・ボンディー（国際基督教大学）